

総合的な学習の時間のヒントに！

学校向け

「福祉学習プログラム」のてびき



宍粟市社会福祉協議会

宍粟市ボランティア・市民活動センター

本部・一宮支部 〒671-4137 一宮町閨賀 300 電話 72-8787 FAX72-8788
山崎支部 〒671-2576 山崎町鹿沢 65-3 電話 62-5530 FAX62-1083
波賀支部 〒671-4241 波賀町安賀 232-1 電話 75-3631 FAX75-3650
千種支部 〒671-3223 千種町室 1060-1 電話 76-3390 FAX76-3649

※この「てびき」は、こちらのホームページからダウンロードできます。➡



宍粟市社会福祉協議会、宍粟市ボランティア・市民活動センターでは、平成29年度から役職員で市内の各小中学校、および高等学校（24校）を訪問し、学校で実践している福祉学習の状況についてのヒヤリングやアンケート調査を行いました。

その結果、地域での福祉体験学習を踏まえ、子どもたちが「相手を思いやる気持ち」「お互いの個性を尊重する意識」を育むきっかけとして、福祉学習が大切な役割を果たしていることを再確認しました。

このたびきは、学校と地域、本会や諸団体などが連携・協働して実践できる具体的内容を提案しておりますので、ぜひご活用ください。

この度、改訂版を発行いたしましたので、今後とも福祉学習の積極的な取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

令和3年7月



【相談から実践までの流れ】

まずは相談を

「福祉教育・ボランティア学習」に取り組むのは初めて、また今までの取り組みをさらによくしたい、時期はいつ頃がいいのだろう等のご相談をボランティアセンターの担当者がお伺いします。連絡先：本部・一宮支部 72-8787

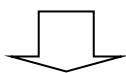
社協がサポートします

ご相談内容に応じ、学校周辺の社会資源や活動する生徒の学年、実施の時期を参考に、授業の企画づくりをサポートします。事前提出票（P16）を提出してください。

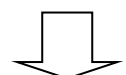
講師や受け入れ先が決まれば、校長先生のお名前で講師に対し※講師依頼文書を作成してください。講師謝金等についてもご相談いただけます。

注意して下さい

体験学習の講師や受け入れ先は、日頃仕事をされています。そのため直前の申し入れには対応できないこともあります。日程調整には、十分な期間を確保するようにしてください。また、ご相談される場合は、事前にお電話でのご連絡をお願いいたします。



【福祉学習プログラム一覧表】参照 ⇒ 体験・活動



振り返りと評価

後日、取り組んだ体験活動や福祉学習などを振り返って下さい。そこに、気づきや学びのヒントがあります。自己の生き方を見つめる要素となり、学習に深まりができます。次の学習へ生かして下さい。

活動や成果を地域の財産に！

福祉学習プログラムを通して得られた成果を、地域に還元していく提案をしましょう。

広報紙への掲載やHPでの紹介という形で、児童・生徒が学んだ事を地域に紹介したり、成果としてできあがった情報やモノを、公共施設や店頭などに設置・配布したりすることは、児童・生徒の自信にもつながります。また、それによって児童・生徒は、自分の暮らしと地域のつながりを知る事にもなるでしょう。活動の成果が地域の財産になるよう工夫しましょう。

●福祉体験グッズ～貸し出し機材の紹介～

体験活動に使用する福祉体験グッズを紹介します。障がいのある方や高齢の方の生活の一端を理解するための補助用具としてご利用ください。貸し出しには事前予約が必要になります。貸出時期が集中したときなど、要望にお答えできない場合がありますので、事前にご連絡をお願いいたします。（機材のみ貸し出しを希望される場合は、使用後に清掃をお願いします）

<p>●車椅子体験</p>  <p>自走型車イス × 14台</p>		<p>●高齢者擬似体験</p>  <p>× 10セット</p> <p>高齢者擬似体験装具の使用については、同装具の使用研修修了者、作業療法士や社協職員などの同席と指導が必要です。</p>	
<p>◆車椅子</p> <p>自走用、介助用がありますが一般貸出も行っていますので早めの予約が必要です。</p>		<p>◆高齢期疑似体験システム</p> <p>高齢者の体をサポーターや重りを身に付けることで体験します。耳栓や視野狭窄めがねもセットに含まれています。</p>	
<p>●アイマスク体験</p>  <p>× 100枚</p>		<p>●点字体験</p>  <p>× 70台</p> <p>点字ボランティアが使用されている場合があるので確認が必要です。</p>	
<p>◆アイマスク</p> <p>視覚障がいを疑似体験する際に使用します。使用の際にはティッシュを目とアイマスクの間にはさみ、感染症を予防します。</p>		<p>◆点字器</p> <p>点字器で実際に点字を学習することができます。わらばん紙や上質紙にも打つことができますが、読み取りのためには点字用紙の使用をお勧めします。</p>	
<p>●点字マット</p>  <p>× 34枚 × 26枚</p>		<p>●白杖</p>  <p>× 5本</p> <p>白杖は、収縮タイプです。</p>	
<p>◆点字マット</p> <p>点字ブロックのシートタイプです。室内で実際に使用することができます</p>		<p>◆白杖</p> <p>視覚障がいのある方が安全に道路を歩行できるようにするための白い杖です。アイマスクと一緒に使用すると効果的です。</p>	

福祉学習プログラム 一覧表（小・中・高等学校向け）

福祉学習（福祉について学ぶこと）とは・・・

生活や学習の中で「福祉」を学ぶことを「福祉学習」といいます。「ふくし」は、「自分のしあわせ」と「みんなのしあわせ」を共に考え、実現に向けて取り組んでいくことです。さまざまな活動や体験を通して、相手をよく知り自分のことも知るという「人が共に生きる」学習といえます。

ページ	プログラム名	めあて・内容	対象学年	その他
P5	基本 「ふ・く・し」 とは	めあて ・ふくしの意味を知る（ふだんのくらしのしあわせ） ・バリアフリー・ユニバーサルデザインの意味を知る ・宍粟市の現状（人口や障害者数）を知る 内容 ・ふくしの意味を考える ・ふだんのくらしのしあわせについて考える	全学年	講師は社協職員が行います
P6	① 車いす体験	めあて ・車いすで生活する中で、どのような不自由なことがあるか気づき、自分たちのできることを考える ・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持つことの大切さを学ぶ 内容 ・車いすについて知る ・車いすを操作する ・自分たちにはできることはどんなことか発表する	5・6年生 中学生 高校生	講師は社協職員が行います
P7	①-2 車いす利用者の生活	めあて ・車いすで生活する中で、どのような不自由なことがあるか気づき、自分たちのできることを考える ・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持つことの大切さを学ぶ 内容 ・車いす利用者のお話を聞く ・車いす利用者との接し方を学ぶ	5・6年生 中学生 高校生	※講師料要相談
P8	② アイマスク体験	めあて ・目が見えないことについて考える ・声かけなどを通じ、相手を思いやる気持ちを持つ ・自分のできることを考える 内容 ・アイマスクを着用し、自分の名前を書く ・手引きの仕方を学び、校内を手引きする ・どんなことに気づいたか発表する	全学年	講師は社協職員が行います
P9	②-2 視覚障害者の生活	めあて ・目の障がいについて理解する ・相手の気持ちを考える ・自分のできることを考える 内容 ・視覚障がい者のお話を聞く ・視覚障がい者との接し方を学ぶ	全学年	※講師料要相談

P 10	②-3 盲導犬について	めあて <ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬の役割を知る ・盲導犬にできること、できないことを知る ・盲導犬ユーザーや盲導犬が「しあわせ」に過ごすためには、学校や町の中ではどのような工夫が必要か考える 内 容 <ul style="list-style-type: none"> ・補助犬について学ぶ（DVD） ・盲導犬との生活について話を聞く 	全学年	※講師料要相談
P 11	②-4 視覚障害者とスポーツ	めあて <ul style="list-style-type: none"> ・STT（サウンドテーブルテニス）やブラインドマラソンの体験を通して、視覚障がい者とともにスポーツを楽しむことができる 内 容 <ul style="list-style-type: none"> ・STT（サウンドテーブルテニス）やブラインドマラソン体験者から 	全学年	※講師料要相談
P 12	③ 点字体験	めあて <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えないことについて考える ・コミュニケーションの仕方について考える ・点字のしくみを覚える ・相手の気持ちを考える ・自分のできることを考える 内 容 <ul style="list-style-type: none"> ・身近にある点字について考える ・点字の基本学習 ・点字を打ってみる ・体験を通して感じたことを発表する 	5・6年生 中学生 高校生	※講師料要相談
P 13	④ 高齢者 疑似体験	めあて <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の体の様子や生活を知る ・高齢者への接し方を学び、思いやる気持ちを持つ 内 容 <ul style="list-style-type: none"> ・疑似体験セットを使い方を知る ・教室内、外を交代しながらコースを回る ・体験を通じて、感じたことを発表しまとめる 	5・6年生 中学生 高校生	講師は 社協職員が 行います
P 14	⑤ ユニバーサル デザインに ついて	めあて <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインがどのようなものか知り、すべての人に便利で安全なものかどのようなものか知る ・自分たちが工夫できることを考える 内 容 <ul style="list-style-type: none"> ・UDの基本を知る ・身近にあるユニバーサルデザインについて考える ・どんなことに気づいたか、発表しまとめる 	5・6年生 中学生 高校生	講師は 社協職員が 行います
P 15	⑥ 災害と防災に ついて	めあて <ul style="list-style-type: none"> ・宍粟市内の被害の様子やボランティアによる支援活動等を学び、日ごろから災害への備えを考える ・自分たちにできる災害時の支援活動について考える 内 容 <ul style="list-style-type: none"> ・宍粟市の災害、被害等を写真やスライドで紹介 ・災害ボランティアセンターの紹介と災害ボランティア活動について 	中学生 高校生	※講師料要相談
	手話体験	宍粟市が行う「宍粟市手話教室講師派遣事業」として講師派遣を行います	宍粟市役所 障害福祉課 TEL 63-3101	
	認知症サポーター 養成	宍粟市が行う「認知症サポート養成講座」として講師派遣を行います	福祉相談課 TEL 63-3167	

基本 「ふ・く・し」とは

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふ・く・し」の意味を考える ・ふだんのくらしのしあわせについて考える ・私たちの周りにはどんな障がいがあるのか考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・他のプログラム実施前の導入になります

対象学年：全学年

プログラム所要時間：15～45分（1限）

関わる人：社協職員

事前準備

- 事前打ち合わせ（担当教員・社協職員）
講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など
- ホワイトボード・黒板

ふくし
「福祉」って何だろう？

ふ
く
し

「福祉」は「」という意味です。

「福祉」とは特別なもののように思えますが、一言でいえば「みんながくに暮らしていくこと」です。つまり、私たち一人ひとりがくに暮らしていけるよう、他の人から支えてもらいながら、まだ一緒にいっしょに支え合って生きていくことが「福祉」といえるでしょう。

タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
10分 ～ 20分	ふくしについて考える ふくしとは？ ふ＝ふだんの く＝くらしの し＝しあわせ 宍粟市の現状について ・人口ピラミッド ・障がいがある人の現状 ・日常生活の中にある障がいについて考えてみよう	グループで話し合っ、発表する ・資料を見ながら宍粟市の現状を知る

① 車いす体験

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすで生活する中で、どんな不自由なことがあるか気づき、自分たちのできることを考える ・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持つことの大切さを学ぶ ・車いす利用者が「しあわせ」に過ごすためには、学校や町の中でどんな工夫が必要か考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「①-1 車いす利用者の生活」を事前に導入するとより効果的である ・安全確保のため、生徒数に合わせて教員や社協職員を増やす必要がある

対象学年：高学年

プログラム所要時間：60～90分（2限）

関わる人：社協職員・教員

事前準備

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○事前打ち合わせ（担当教員・社協職員）
講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など
体験コースの下見、安全確保 ○車いす（基本3人で1台） |
|--|



タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」とは	
15分	車いすについて ・説明 ・体験の諸注意	部分名、介助方法を伝える（別紙）
45分	車いす体験 ・校舎内（教室内、廊下） ・校舎周辺（狭い道、段、坂、スロープ） ・体育館（体操マットや跳び箱台使用）	基本三人組で行う ※2人のところは先生か職員がつく ・交代で3人ともが介助、被介助両方を体験できるようにする
10分	感想・まとめ	感想を発表する

今後のプログラム

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・車いすを使用して学校の外に出てみる（買い物施設、公共施設等） |
|---|

①-2 車いす利用者の生活

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを利用した生活で、どのような不自由なことがあるかを考える ・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持つことの大切さを学ぶ ・自分たちが感じたことを確認し、出会ったら何ができるかを考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習後、「① 車いす体験」を取り入れると効果的である

対象学年：高学年

プログラム所要時間：20～45分（1限）

関わる人：地域のボランティア（車いす利用者）・社協職員


事前準備

○事前打ち合わせ（車いす利用者・担当教員・社協職員）
 講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など

宿題

○車いす利用者の生活について気になることや、聞いてみたいことなど質問を考えておく

タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」とは	
20分	車いす利用者のお話を聞く ・生活について ・声かけの仕方 ・質問タイム	車いす利用者・進行役などが役割分担しながら進める
5分	感想・まとめ	感想を発表する 

② アイマスク体験

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者について知る ・手引きをどう工夫すれば、相手が歩きやすいか、安心できるかを考える ・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持つことの大切さを学ぶ ・自分たちが感じたことを確認し、出会ったら何ができるかを考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「②-2 視覚障がい者の生活」を事前に導入するとより効果的である ・安全確保のため、生徒数に合わせて教員や社協職員を増やす必要がある

対象学年：全学年

プログラム所要時間：60～90分（2限）

関わる人：社協職員・教員

事前準備

- 事前打ち合わせ（担当教員・社協職員）
講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など
体験コースの下見、安全確保
- アイマスク・白杖・点字ブロック



タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」とは	
10分	アイマスクをつけて名前を書いてみる	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも通りに名前を書く ・アイマスクをつけて自分の名前を書く →どのように違うか考える
5分	ガイドヘルプ（手引き）について <ul style="list-style-type: none"> ・説明 ・体験の諸注意 	手引きの方法を伝える（別紙）
45分	ガイドヘルプ（手引き） <ul style="list-style-type: none"> ・校舎内（教室、廊下、階段） ・校舎周辺（狭い道、段、スロープ） 	基本二人組で手引きを行う <ul style="list-style-type: none"> ・交代で二人とも体験できるようにする
10分	感想・まとめ	感想を発表する

②-2 視覚障がい者の生活

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がいについて知る ・視覚障がい者の生活で、どんな不自由なことがあるかを考える ・不自由なことがあってもできることがたくさんあることを知る ・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持つことの大切さを学ぶ ・自分たちが感じたことを確認し、出会ったら何ができるかを考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習後、「② アイマスク体験」や「②-3 盲導犬について」、「②-4 視覚障がい者とスポーツ」を取り入れるとより効果的である

対象学年：

プログラム所要時間：20～45分（1限）


事前準備

○事前打ち合わせ（視覚障がい者・担当教員・社協職員）
 講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など

宿題

○目の不自由な方の生活について気になることや、聞いてみたいことなど質問を考えておく

タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」とは	
20分	視覚障がい者のお話を聞く <ul style="list-style-type: none"> ・生活について ・声かけの仕方 ・質問タイム 	視覚障がい者・進行役などが役割分担しながら進める
5分	感想・まとめ	感想を発表する 

②-3 盲導犬について

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がいについて知る ・盲導犬について知る（盲導犬にできること、できないことを知る） ・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持つことの大切さを学ぶ ・自分たちが感じたことを確認し、出会ったら何ができるかを考える ・盲導犬ユーザーや盲導犬が「しあわせ」に過ごすためには、学校や町の中ではどのような工夫が必要か考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬について学ぶ前に①ふくしとは、④視覚障がい者について を導入する、もしくは「盲導犬ユーザーからのお話」の中に取り入れながら実施したい

対象学年：全学年

プログラム所要時間：45分（1限）

関わる人：地域のボランティア（盲導犬ユーザー）・社協職員

事前準備

○事前打ち合わせ（盲導犬ユーザー・担当教員・社協職員）
 講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など
 体験コースの下見、安全確保

宿題

○盲導犬について気になることや、聞いてみたいことなど質問を考えておく

タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」とは	
20分 (30分)	盲導犬ユーザーのお話を聞く <ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬について ・盲導犬との生活について ・使っている道具について ・声のかけ方について 	盲導犬ユーザー・進行役などが役割分担しながら進める
※10分	ガイドヘルプ（手引き）を体験する 盲導犬を連れたユーザーの手引き行う	「声かけ」し、教室内の移動を手伝う <ul style="list-style-type: none"> ・希望者を募り2名程度行う ・体験した生徒に感想を聞く
10分	感想・まとめ	感想を発表する



②-4 視覚障がい者とスポーツ

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がいについて学ぶ事と合わせて、当事者の方々とのふれあいや交流を通じ、福祉のこころを育む。 ・STT（サウンドテーブルテニス）やブラインドマラソン等、視覚障がい者とともにスポーツを楽しむ、自分にできるサポートやお手伝い、また障がい者の方々との普段からのかかわりを考える。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「② アイマスク体験」「②-2 視覚障がい者の生活」を事前に導入するとより効果的である

対象学年：全学年

プログラム所要時間：45分（1限）

関わる人：地域のボランティア（ブラインドマラソン・STT経験者）・社協職員

事前準備

○事前打ち合わせ（地域ボランティア・担当教員・社協職員）
 講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など
 体験コースの下見、安全確保
 ○STTの場合 卓球台

タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」とは	
20分	STTの体験 ブラインドマラソン	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者、地域ボランティア、進行役などが役割分担しながら進める ・STT（サウンドテーブルテニス）やブラインドマラソンを体験
15分	感想・まとめ	感想を発表する



③ 点字体験

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・目が見えないことについて考える ・コミュニケーションの仕方について考える ・点字のしくみを覚える ・相手の気持ちを考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「②-2の視覚障がい者の生活」を事前に導入するとより効果的である。

対象学年：高学年

プログラム所要時間：90分（2限）

関わる人：地域のボランティア（点訳サークル等）・社協職員

事前準備

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○事前打ち合わせ（視覚障がい者・担当教員・社協職員）
講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など ○点字版・点字用紙 |
|---|

宿題

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○点字一覧表の自分の名前の文字に○で囲む ○身近にある点字を探してみる。 |
|---|

タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」について	
25分	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある点字について考える ・点字の基本学習 ・点字を打ってみる 	
5分	感想・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して感じたことを発表する

今後のプログラム

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・点字絵本の作成（中学生以上） ・街の中で点字を見つける |
|---|



④ 高齢者疑似体験

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の体の様子や生活を知る ・高齢者への接し方を学び、思いやる気持ちを持つ
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・体験セットの装着に時間がかかるので、メンバー全員が体験できるように配慮する ・事前に、担当教諭に体験セットの装着を覚えていただく

対象学年：高学年

プログラム所要時間：60～90分（2限）

関わる人：社協職員・教員

事前準備

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○事前打ち合わせ（担当教員・社協職員）
講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など ○高齢者疑似体験教材 |
|---|



タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」について	
30分 ～ 60分	疑似体験（グループに分かれて行う）	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5人のグループに分け、疑似体験セットを装着する。装着する際は、椅子に腰かけるなど転倒予防に努める。 ・教室内・椅子から立ち上がったたり、飲み物を飲んだりする ・教室外・廊下や階段を歩行する。他のメンバーが見守りを行う。 ・手や足の曲がりにくさを体験する ・メンバーで交代しながら行う
10分	感想・まとめ	グループごとに意見交換し、発表する

今後のプログラム

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流事業の実施（昔遊び・昔の生活を知る） ・老人クラブとの交流事業（しめ縄・レクリエーション活動） ・認知症サポーター養成講座 |
|---|

⑤ ユニバーサルデザインについて

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン（UD）がどのようなものか知り、すべての人に便利で安全なものがどのようなものか知る 身の回りのUDについて考える 自分たちが工夫できることを考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いを確認しておく


対象学年：高学年

プログラム所要時間：45～60分（1～2限）

関わる人：社協職員

事前準備

○事前打ち合わせ（担当教員・社協職員）
講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など



7つの原則

1. どんな人でも公平に使えること
2. 使いやすい方を選んで使える
3. 使い方が簡単で、すぐに分かること
4. 必要な情報がすぐに分かること
5. うっかりミスが危険につながらないこと
6. 無理な姿勢や強い力が必要ではなく楽に使用できること（弱い力でも使える）
7. 利用するための十分な大きさと広さがあること

宿題

○宿題 当日までに、ユニバーサルデザインについて調べる

タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	今日の流れとめあてを説明する
15分	「ふ・く・し」について	
25分	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの7つの原則を知る 身近にあったUDを発表する 	自分たちの身の回りであったユニバーサルデザインについて発表する
15分	UDグッズを実際に使ってみる	5,6人のグループに分かれて、ユニバーサルデザイングッズを使ってみる どのようなところが便利で安全であったか話し合う
5分	感想・まとめ	グループごとに意見交換し、発表する

今後のプログラム

- ユニバーサルデザインマークやユニバーサルデザインフォントについて調べる
- 学校内の表示をユニバーサルデザイン化してみよう

⑥ 災害と防災について

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年台風9号豪雨災害、平成30年西日本豪雨災害など宍粟市内の被害の様子やボランティアによる支援活動等を学び、日ごろから災害への備えを考える 災害ボランティアセンターの取り組みを紹介し、市内の高校生等の学生ボランティアの活動の様子や被災地支援活動など、自分たちにできる災害時の支援活動について考える
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応ゲーム・クロスロードは、5名程度のグループで行います

対象学年：中学生以上


プログラム所要時間：90分（2限）

関わる人：地域のボランティア・社協職員

事前準備

○事前打ち合わせ（地域ボランティア・担当教員・社協職員）
講話の内容調整・役割分担・振り返り内容など

タイムスケジュール（例）

時間	内容	具体的な進め方
5分	今日の流れ	
20分	宍粟市の災害、被害等を紹介 災害ボランティアセンターの紹介	<ul style="list-style-type: none"> 写真やスライドで説明 災害ボランティアセンターや災害救援活動について紹介
20分	災害ボランティア活動について	<ul style="list-style-type: none"> 高校生のボランティアによる救援活動等を紹介 災害Vネットワークなどボランティアによる活動の紹介
35分	グループワーク /災害対応ゲームクロスロード	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合い
20分	まとめ・感想	

福祉学習事前提出票

年 月 日

電話 ・ FAX ・ 来所

小 ・ 中 ・ 高等学校	TEL： ー FAX： ー
担当者	先生 ・ 先生
児童・生徒数	年生 名 ()
参加先生数	名
希望日時	第1希望 月 日 () 時 分～ 時 分
	第2希望 月 日 () 時 分～ 時 分
	第3希望 月 日 () 時 分～ 時 分
学習内容 ※希望の内容に (○) をつけてください。	() 基本「ふ・く・し」とは () ① 車いす体験 () ①-2 車いす利用者の生活 () ② アイマスク体験 () ②-2 視覚障害者の生活 () ②-3 盲導犬について () ②-4 視覚障がい者とスポーツ () ③ 点字体験 () ④ 高齢者疑似体験 () ⑤ ユニバーサルデザインについて () ⑥ 災害と防災について () ※詳細は、「福祉学習プログラム」のてびきを参照ください。
場 所	(雨天時)
福祉学習の 体験履歴	
その他	
事前打合	第1希望 月 日 () 時 分～ 時 分
	第2希望 月 日 () 時 分～ 時 分

- ・連絡はFAXでいたします。
- ・日程が決まり次第、講師派遣申請書を提出してください。
- ・当日使用する資料は、原紙のみを送りますので、学校で印刷し用意してください。

※この様式は、こちらのホームページからダウンロードできます。➡



宍粟市社会福祉協議会 本部・一宮支部・宍粟市ボランティア市民活動センター

〒671-4137 宍粟市一宮町閨賀 300 番地 (TEL: 72-8787・FAX: 72-8788)



「福祉学習プログラム」のてびき

2021（令和3）年7月発行（改訂版）

発行・編集 社会福祉法人 宍粟市社会福協議会

宍粟市ボランティア市民活動センター

〒671-4137 兵庫県宍粟市一宮町閏賀 300 番地

電話 0790-72-8787 FAX 0790-72-8788

てびきは赤い羽根共同
募金配分金により作成
しています

